

平成24年度からスタートする調査研究課題の紹介

やまなし

第80号

2012年7月

衛環研だより

発行：山梨県衛生環境研究所 甲府市富士見一丁目7-31 TEL 055-253-6721

URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/fukushi/eikouken/>

平成24年度第1回課題評価委員会が6月6日に開催されました。

事前評価の対象になった課題は次のとおりです。

No.	調査研究課題
1	食品中の放射性物質影響調査
2	ロタウイルスが原因となって発生した感染症事例の遺伝子解析
3	県内河川水中における重金属の形態分析

調査研究計画評価書

No. 1

評価実施年月日	平成24年6月6日					
調査研究課題 (部・科名)	食品中の放射性物質影響調査 (生活科学部・食品・医薬品科)					
調査研究期間	平成24年度～平成25年度 (2カ年)					
調査研究概要	<p>この調査はゲルマニウム半導体放射性核種分析装置を用いる。 測定方法は文部科学省・放射能測定シリーズ及び厚生労働省通知を基に測定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本県の農畜産物における放射性物質の濃度状況を明らかにする。 2. 農産物ごとの濃度特徴を明らかにする。 3. 地域ごとの濃度状況を明らかにする。 4. Cs以外の放射性物質、PbやBi・K-40などとの濃度関連性を検討する。 					
評価内容	評価点※				総合評価点※	
① 調査研究目的の妥当性	⑤	4	3	2	1	⑤ 4 3 2 1
② 厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1	
③ 目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1	
④ 衛生行政・環境行政への寄与	⑤	4	3	2	1	
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	⑤	4	3	2	1	
総合評価コメント	<p>県民も注目している調査であり、意義は大きい。数値が得られた時は、その意味を県民にどう伝えるかも、検討してほしい。</p> <p>食品の放射性物質濃度が今までいくらであり震災の影響での変化はどれほどか県民としては知りたいところです。影響がないバックグラウンドの調査が必要であったと感じる。出来事が起こる前の状況も知りたいという項目は他にもあるかもしれない。頻度は小さくても、調査をしておくことが、将来、意味を持つ調査項目は他にもないか研究所として考えることを希望する。</p>					
所の対応	<p>調査で得られたデータを蓄積し分析したうえで、その結果について県民へどう伝えていくのかは、今後の課題であり、関係機関と連携し情報提供の方法等について検討していきたい。</p> <p>県民の食の安全や健康につながる基礎研究にも積極的に取り組んでいきたい。</p>					

※ 5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調査研究計画評価書

No. 2

評価実施年月日	平成24年6月6日		
調査研究課題 (部・科名)	ロタウイルスが原因となって発生した感染症事例の遺伝子解析 (部生物部・ウイルス科)		
調査研究期間	平成24年度～平成25年度 (2カ年)		
調査研究概要	<p>ヒトロタウイルスは嘔吐や下痢などの消化器症状を引き起こすウイルスである。消化器症状の患者からはノロウイルスに次いで2番目に多く検出されている。またロタウイルスに関する最近の動向として、2011年7月に経口ワクチンが承認され、11月から接種が開始された。</p> <p>そこで、感染症対策の基礎資料、また本県でのワクチン導入前・開始時期の検出状況の基礎資料とするため、県内で発生したロタウイルスによる集団下痢症事例から検出された株の解析を行い、ここ数年発生した集団事例の特徴や検出されたロタウイルスの性状を検討する。</p>		
評価内容	評価点※	総合評価点※	
① 調査研究目的の妥当性	5 4 ③ 2 1	5 ④ 3 2 1	
② 厚生・環境科学における学術的意義	5 ④ 3 2 1		
③ 目標達成のための手法、計画、体制	5 ④ 3 2 1		
④ 衛生行政・環境行政への寄与	5 ④ 3 2 1		
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	5 ④ 3 2 1		
総合評価コメント	<p>ロタウイルスの株の解析を行うことの、学術的意義及び健康管理上の基本的な意義を認める。株の解析結果が得られることと県民の健康向上との接点が、県民的視点で説明できるとよい。</p>		
所の対応	<p>遺伝子の解析結果が県民の健康向上に活用できるよう検討していきたい。 また、わかりやすい情報提供に努めていきたい。</p>		

※ 5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調査研究計画評価書

No. 3

評価実施年月日	平成24年6月6日				
調査研究課題 (部・科名)	県内河川水中における重金属の形態分析 (環境科学部・水質科)				
調査研究期間	平成24年度～平成25年度 (2カ年)				
調査研究概要	<p>重金属類による環境汚染の多くは、工業排水や生活排水等が公共用水域へ流入することで起こり、生態系への影響を無視できなくなっている。近年、水生生物に対する重金属の毒性影響について評価されており、一部の重金属で水生生物の生態系に悪影響を及ぼすことが示唆されている。</p> <p>一方で重金属の毒性は、その存在形態や周囲の物理的条件(pH、硬度等)によって異なることが知られている。</p> <p>従って、環境水中の重金属の存在形態について把握しておくことは、水生生物保全又は水質環境保全の面で重要であると考えられる。本研究では、県内河川水中の重金属を形態別(懸濁態、溶存態、フリーイオン)に分析し、実態を把握することを目的とした。</p>				
評価内容	評価点※		総合評価点※		
① 調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1
② 厚生・環境科学における学術的意義	5	4	③	2	1
③ 目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1
④ 衛生行政・環境行政への寄与	5	4	③	2	1
⑤ 県民、社会的ニーズへの対応	5	4	③	2	1
総合評価コメント	<p>基本的な調査であり、より詳細な分析を行うことが、新たな知見につながることを期待する。</p> <p>詳細な分析を加えることの意味が県民の目線でも理解できるような説明がのぞまれる。</p>				
所の対応	<p>詳細な分析を行い、得られた研究結果について、県民が理解できるよう情報提供の方法について検討していきたい。</p>				

※ 5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す